

産科外来のシステム変更

府中病院

西第2病棟 永井 秋恵

1. テーマ選定

課題 \ 評価項目	重要性	緊急性	実現性	期間内終了	施設の方針	貢献度	要望	合計点
待ち時間の短縮	2	3	2	2	3	3	3	18
助産師外来受診数の増加	3	3	2	3	3	3	1	18
医師・助産師の連携が不十分	3	3	3	2	2	2	1	16
助産師外来のアピール不足	3	2	2	2	3	2	1	15
助産師外来を行うスタッフの曜日固定が難しい	2	2	3	2	2	2	1	14
助産師の知識不足	3	3	3	1	2	2	1	15
助産師外来に携わっていない助産師の関心が低い	3	2	3	2	2	2	1	15

マトリックス図

H20 年 1 月に助産師外来を開設した。その目的は、産科医師の過剰労働の軽減、助産師の専門性の向上、産科医師診察の待ち時間短縮、パートナーの満足・信頼の獲得が挙げられる。さらに、常勤医師の不足のため助産師の専門性を生かし、助産師外来受診数を増加させることで医師・助産師・パートナーが共に満足できるのではないかと考えこのテーマに決定した。

2. 課題の明確化

ギャップシート(図 2)の結果から、助産師外来受診者数の増加を図るための課題として、助産師の「人材確保」「スキルアップ」「ソフト・ハード面の整備」「パートナーへの情報提供」が必要であると考えた。

サークル チーム名		府中病院 西第2病棟 (2008年 6月結成)				
リーダー氏名 (職種)	永井 秋恵 (助産師)	所属部門	診療 医療技術 その他 ()	看護 事務管理	月あたり会合回数	10回
リーダー経験年数	1年				平均会合時間	60分
メンバーの数	計 7 名 うち男 名 うち女 7名	QCストーリー	問題解決型	課題達成型	平均会合出席率	70%
		活動内容	質 モラル	能率 CS 安全 コスト	テーマ暦 (このテーマで)	2件目

特性・項目	ありたい姿	現在の姿	ギャップ	攻め所の候補	期待効果	採否		
特性	助産師外来の受診人数	助産師外来受診数を平均 15 名/日にする	助産師外来受診数は平均 6 名/日	助産師外来受診数が 1 日平均 9 名増加する	—	—	—	
特性を 実 現 さ せ る 項 目	人	助産師外来を助産師 2 名体制とする	助産師外来 1 名で実施	助産師外来担当スタッフ 1 名	①助産師 1 名増員	大	採用	人材確保
		同じ助産師が担当することで妊婦の定着化を図る	同じ助産師の担当が難しい	勤務上の問題	②勤務調整し、担当を固定する	小	不採用	
環境		診察・エコーができる十分なスペースがある	助産師外来の部屋は狭い	部屋が狭く、効率が悪い	③部屋のスペースを確保	中	採用	ハード面の整備
		温かみのある部屋	殺風景で、圧迫感がある	助産師外来の雰囲気とは異なる	④部屋の模様替え	中	採用	
認知度		助産師外来の内容を理解した上で受診して頂く	助産師外来の内容を知らず受診している人がある	助産師外来の内容の説明不足	⑤助産師外来について宣伝	大	採用	パートナーへの情報提供
		当院が助産師外来を実施していることを宣伝する	助産師外来の存在を知らない妊婦が多い	助産師外来の宣伝不足				
技術		エコー技術を向上し、助産師外来でも積極的に実施できるようにする	エコー診断の経験・自信がない	エコー技術と知識の不足	⑥助産師外来に必要な知識・技術についての勉強会を実施	中	採用	スキルアップ
連携		医師、助産師ともに助産師外来の内容について把握する	基準や内容が把握できていない	スタッフ間で助産師外来についての意識統一ができていない	⑦スタッフに助産師外来の内容について再確認	中	採用	

3.目標設定

助産師外来受診者数が『平均 15 名/日に増加』することを目標。

目標設定値は診察可能時間と助産師外来適応妊婦の人数から考えた。

- 1) 1 日の助産師外来診察時間は 9 時～12 時までの 180 分間である。そのため、1 人当たりの診察時間を 20～30 分とし、総診察時間で割ると 7.5 人となる。2 診体制に変更することから、その 2 倍の 15 人を診察することが可能である。

$$\frac{1 \text{ 日診察時間 } 180 \text{ 分}}{1 \text{ 人当たりの診察 } 20 \sim 30 \text{ 分}} \times 2 = 15 \text{ 人}$$

- 2) 助産師外来適応妊婦のシュミレーションを行った結果、1 日に 20～28 名であった。医師診察と助産師外来の交互システムのため約半数の人数を目標値とし、15 名とした。

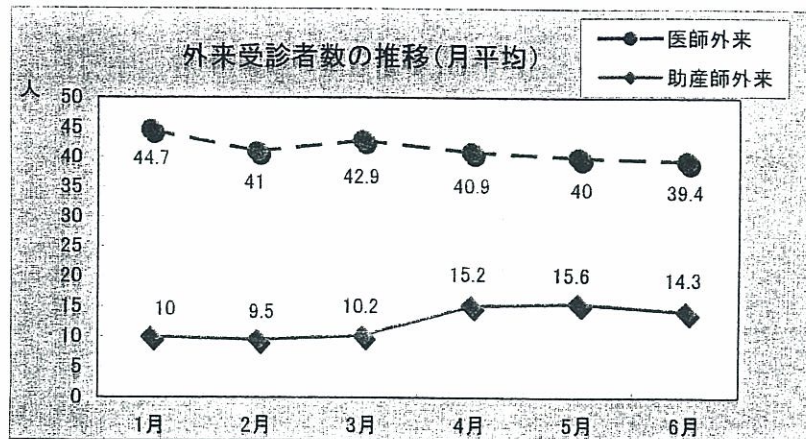
4.方策の立案

活動計画を三段階で立案した。

	目的	方策案
第 1 段階	助産師外来の 質的評価	・助産師外来受診者数の把握 ・当科外来受診パートナーと、当病棟のスタッフ対象にアンケート調査 ・助産師外来認知度向上のための宣伝活動
第 2 段階	助産師のスキルアップ	・エコー技術習得のため、生理検査技師の協力のもと研修会を開催
第 3 段階	医師外来・助産師外来 交互診察のシステム化	・従来の健診スケジュールを見直し、受診可能妊婦の拡大を図る。 ・病院幹部の許可後、2 診体制の整備、システム化へ移行

6.対策実施効果

2008 年 10 月では、受診数を 12 名まで増加することができ、達成率は 80%であった。2009 年 4 月からは軌道に乗り始め、受診数 14～15 名で、達成率は 95～100%となっている。



《無形効果》

- ① 妊婦への関心が高まり、医師及びスタッフ間での情報交換の機会が多くなった。
- ② アンケートの結果より助産師職務に対する認識が高まった。
- ③ お産の管理を行う上で助産師の主体性を尊重してもらえるようになった。
- ④ 助産師は専門性を高めていくことに意欲的に取り組むようになった。

7.定着化

医師の理解と支援のもと、助産師外来の質と人材の確保を継続していくことが大切である。

定着化を図るための取り組み

- ①健康診査・保健指導技術の向上
- ②エコー技術の向上
- ③妊産褥婦の満足度調査の実施を継続、定期的にシステムの見直しを行う

効果の上がった対策	日常業務への組み込み方
助産師外来受診者数が増加した	システム化に伴い、12 月にはさらに助産師外来受診者数が増加する予定である。今後も外来にて助産師外来のアピールを行い、助産師外来受診者数の増加・活用を目指す
助産師外来担当者のエコー技術が向上し、スキルアップにつながった	定期的に検査技師の協力を得て、エコーの勉強会を実施し、エコー技術の習得を目指す
助産師外来用の部屋を増設し、2 診体制の整備を行った	助産師外来を担当できるスタッフを外来に 2 名おき、2 診体制にて助産師外来を行える体制をとる

8.今後の課題

助産師外来の更なる拡大を目指して、助産師外来のみの希望健診システムを追加。

来年には、院内助産院を開設予定。